

## 脳神経内科実習を終えて 6年生アドバンスコース3クール目

今回脳神経内科で実習を希望させていただいたのは、自分自身神経診察や脳神経分野に対して昔から苦手意識を持っていたからです。そんな苦手意識から勉強するにもどうも身が入らず、逃げてばかりでした。自分の性格に嫌気が差しつつも、この性格を正すための行動を何かする訳でもなく、体たらくな日々が続きました。そんなある日、アドバンスコースでの選択を迫られた際に、このままでは自分は一生逃げ続ける情けない人間になってしまうと感じ、己を心身から鍛えなおし弱点を克服すべく今回選択させて頂いた所存です。

結論から申し上げますと、神経診察や神経系に対する苦手意識は無くなったように感じます。度重なる神経診察を見学させて頂いたり実際にさせて頂くことで、出来ることが少しずつ増えていったのを今でも鮮明に覚えています。人間、誰しも弱点を克服することは決して簡単なことではないですが、それが達成された時のみ次の道が見えてきます。そのことを学べたことこそ、2週間の一番の成長だと感じております。

最後になりましたが、脳神経内科学講座の皆様、2週間本当にお世話になりました。

ありがとうございました。

乗田 敏司

今回はアドバンストBSLの最終2週間を神経内科でお世話になりました。

プライマリーBSLでの実習より充実した学習が出来たように感じました。Post-CC OSCE対策として行った医療面接や新患外来の実習では自分の知識不足だけでなく身体診察能力・問診能力の不足や神経内科の診察の難しさを痛感しました。症状から鑑別疾患が出ず、どの身体診察を行えばよいのか考えられていませんでした。また身体診察を概念では理解していたつもりでしたが、実際に模擬患者を前にして診察するときにはうまく行えず曖昧に覚えていたことに気づきました。

病棟実習では教科書には載っていない病気や検査などがたくさんあり、理解するのが難しいときもありました。しかし先生方が丁寧に教えてくださったので完全には理解することは出来ないもののかなり知識が増えました。パーキンソン病で見られる固縮をプライマリーBSLで実際に診察することは出来ず惜しい気持ちがありましたが、アドバンストBSLで診察できよかったです。

今回2週間の実習では神経内科の難しさを思い知った一方で、神経内科により興味を持ちました。2週間ありがとうございました。

中山 義貴

今回の神経内科の実習では神経診察を中心に学びたいと考えていた。神経診察はどの科に行っても役立つ手技であり、内科医として必須の能力だと思う。いままで座学では手技について学んできたが実際に行うのはわけが違ふと感じた。最も難しいのは異常をどう判断するかということだ。先生の回診を見ていて、異常だと言われれば理解はできるが実際自分で所見をとった際にこれは有意な所見なのかということが何より難しかった。これについてはこれから患者さんを実際に診断しながら、その結果を神経診察にフィードバックし異常所見へ理解を深めていこうと思う。そのためにも研修医ではとにかく実際に神経診察を取ることを大事にしていきたい。その準備段階として今回の実習はとても有意義に感じた。

もうひとつこの実習で学んだことは脳解剖の重要性である。実際に取った神経診察から脳や神経系のどこが異常なのか判らなければまったく意味がない。中枢神経障害なのか、末梢神経障害なのか、錐体路障害か、錐体外路障害かなど多くの鑑別があがる。しかしこれは他の科でも同じである。生理、解剖学的にどこが異常なのかこれを理解しなければ得られた所見から鑑別診断を考えられない。その練習としても神経内科で脳の機能のどこが異常なのか考える習慣の大切さに気づいたことは非常に意味があることだと感じた。

将来の専門としても神経内科は考えている診療科であり、これからも神経診察を積極的に学んでいきたいと思う。

福田浩史

私は、5年生の頃に **Primary BSL** で金井先生のレクチャーを拝聴して以来、ずっと **advanced BSL** でも脳神経内科で実習させて頂きたいと思っておりました。このたび、かねてからの願望がかなって、2週間という短い期間でしたが多くの経験をさせて頂きました。

日頃の座学においては、一度も出会ったことのない身体所見について、どんなに浩瀚な教科書で、いくら多くの言葉を尽くして説明されても、やはり具体的にはイメージすることはできない、そういう葛藤がずっとありました。

しかし、**advanced BSL** では実際に患者さんのご協力を頂きながら身体所見を拝見し、さらにそれについての先生からのご解説や教科書の記載を参照することで、「なるほど、そういうことだったのか!」と腑に落ちる機会を多く得ることができました。そして、これらの経験は記憶としても、より鮮明に私の脳裏に刻み込まれたに違いありません。

実習中は博覧強記の先生方のディスカッションに終始感動しきりでした。それとともに、高度な内容に理解の及ばないところが少なからずあったのも事実で、私の不勉強が大いに露呈する形ともなりました。わからないなりに教科書につけた付箋や先生直伝の **clinical pearl** のメモ書きの数々は私にとって宝物です。

己の無知蒙昧を野放しにしているはもちろんいけませんので、今後は怒涛の如く復習を重ね、精進して参ります。2週間ご指導いただきありがとうございます。ごさいます。

佐々木庸輔